

小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実に向けた研修の在り方
～特別支援教育の資質・能力を育成するために必要な研修内容・研修体系の再考(3年計画)～
福島県教育委員会(特別支援教育センター)

【 背景：現状と課題 】

- 管理職をはじめとする全ての教員に、特別支援教育に関する資質・能力が求められており、県の教員育成指標にも必要な資質が示されている。
- 各学校等において、特別支援教育に関する校内研修の実施率が高いが、研修内容・方法の把握や研修効果の検証はされていない。
- 小・中学校において、特別支援学級が増加している。特別支援教育への関心は高まっているが、指導支援に課題を抱えている教員や学校が多く、それぞれの学びの場における一人一人の教員の特別支援教育の正しい理解や指導力の向上を図るための研修や組織的な取り組みが喫緊の課題となっている。

目 的

- 小・中学校、高等学校における教師の特別支援教育に関する意識や取組状況、研修実施状況や内容等について調査・分析し、研修ニーズ・課題等を明らかにする。
- 「校長及び教員としての資質の向上に関する指標【第2版】」(福島県教育委員会)を基に、全ての教員に求められる特別支援教育に関する資質・能力と達成到達目標を具体化にすると共に、研究協力校における実践研究を通し、必要な研修内容や実施の在り方を探る。
- 特別支援教育に関するキャリア形成を示す研修体系表を作成し、県教育委員会、市町村教育委員会、各学校等で実施する研修で活用することで、管理職をはじめとするすべての教員が経験年数に応じて学ぶ機会の充実を図る。

内 容

- 特別支援教育に関する研修の実施状況やニーズ、課題、教員の意識・考え方等の調査・分析(小・中学校、高校、市町村教委)
- 全ての教員(管理職含む)に求められる特別支援教育に関する資質・能力の整理と研修の実施
- 特別支援教育のキャリア形成に向けた研修体系表の検討、研修パッケージの作成と周知
- 研究協力校における実践(課題を踏まえた研修のあり方の実践と検証)

1年次

- 研修の実施状況や研修ニーズ等の調査の実施、分析(小・中・高等学校、市町村教委)
- 必要な資質・能力の整理、体系化検討
- 研究推進アドバイザーの活用(3年間)
- 実施検討委員会の実施(年3回3年間)
- 運営協議会の実施(年2回3年間)
- 管理職・市町村への研修(3年間)

2年次

- 研究協力校との実践研究
 - ・ 研修の実施状況と課題の把握
 - ・ 課題やニーズに応じた校内研修の実践
- 研修パッケージの開発と活用・周知
- 必要な資質能力と研修項目の体系化
- 事務所、市町村と連携した研修の実施(2年間)

3年次

- 自校化に向けた研究協力校での実践研究
 - ・ 校内研修の実践と評価
 - ・ 研修内容及び体系表の検証
- 研修パッケージ・研修体系表の改善・作成
- 関係機関と協同した管理職への周知
- 研修体系表の完成

<研究協力校> 伊達市立保原小学校 伊達市立桃陵中学校 福島県立伊達高等学校

期待される成果

- ・ 研修内容、研修体系が整理されることで、各学校が、自校の特別支援教育に関する課題解決に向けて主体的に研修に取り組むことができる。
- ・ 各学校において、特別支援教育の理解推進が図られ、発達障がい等のある児童生徒の特性に応じた指導・支援の充実や学校・学級経営の充実につながる。
- ・ 教育事務所、市町村教委との連携による地域における研修の充実が図られる。

教育的ニーズに応じた指導の充実・校内支援体制整備
学力向上

